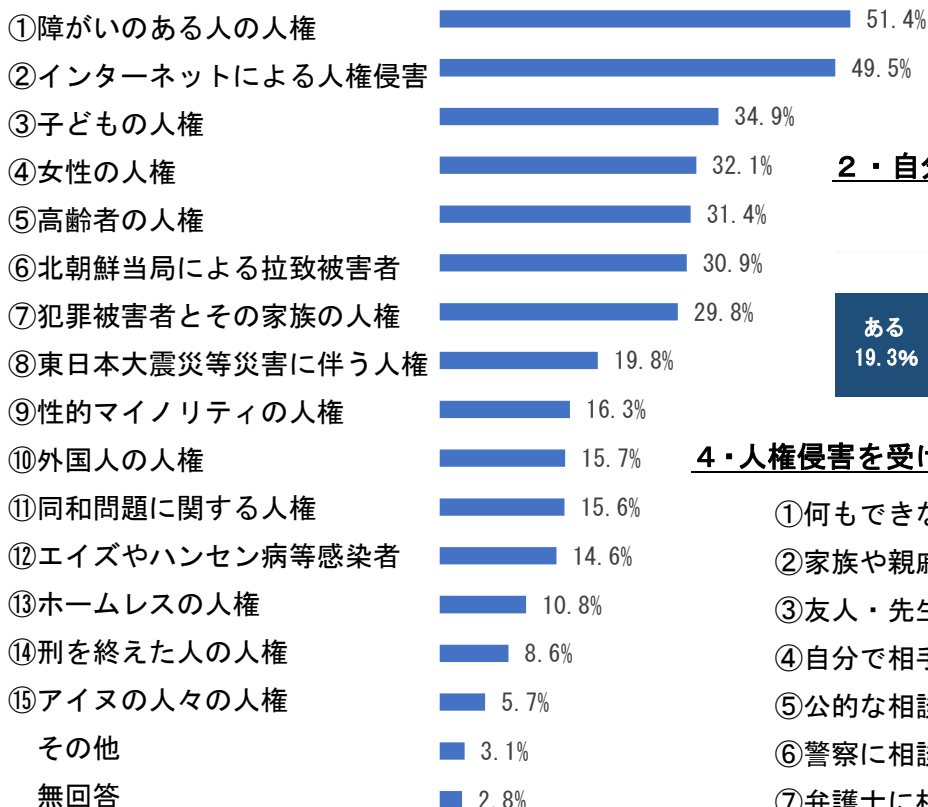


1. 市民の方々の人権意識から考えてみましょう

20 世紀は二度の世界大戦によって大国主義、植民地支配、国家の主義主張、宗教対立などが顕著に表れ、人々への人権侵害・人権抑圧が世界各国で横行しました。その反省から 21 世紀は「人権の世紀」にしていこうと世界が動いてきました。多くの植民地が独立し人種、民族の尊厳が確保されてきています。また、抑圧されてきた子どもや女性、高齢者や障がいのある人々、マイノリティの人々に光が当てられてきました。さらに今、「地球上の誰一人取り残さない」社会づくりをめざしています。ところが私たちの周りには、急激な変化に戸惑い、「特別な扱いはおかしい」「今まではこうだった」「タブー化も大切だ」などの声があることも事実です。そこで宝塚市民の意識調査から問題点を出し合い、話し合うことでよりよい市民社会を作り上げていきましょう。

1・早急に解決すべき人権問題は？（複数回答）

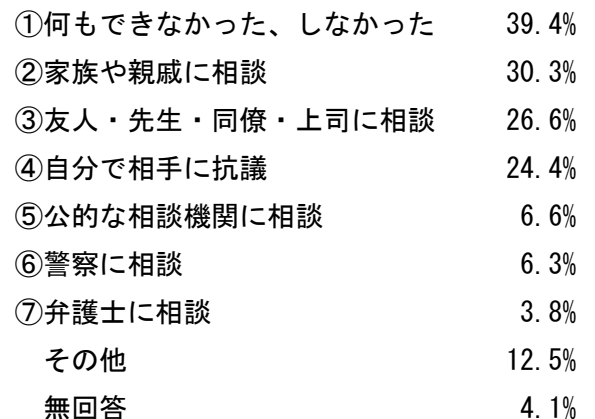


市民意識調査は 2016 年 11 月に宝塚市が実施した市民 16 歳以上 1,661 名の回答です。
2 以外は複数回答です。

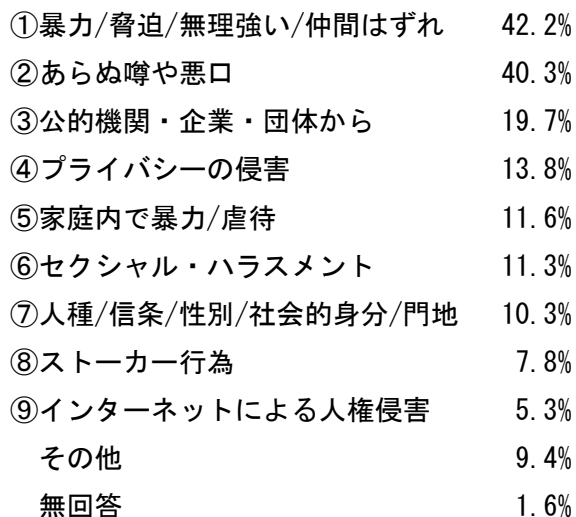
2・自分の人権が侵害された経験は？



4・人権侵害を受けたときどうしたか？（複数回答）



3・どんな人権侵害を受けたか？（複数回答）



話し合ってみましょう

- ①人権侵害を受けた市民が 20%弱で 5 人に 1 人と少ないことに疑問がありませんか？
- ②あなたは人権侵害を受けた経験がありますか？話せることなら話してみましょう。
- ③調査では日本固有の人権侵害である部落差別問題について解決意識が低いのはなぜでしょう？
- ④あなたは人権を大切にしてくれる人との出会いはありましたか？

2. 「人権感覚」って何でしょう？

あなたが考える人権感覚は

それは、自分の心の思いです。
それは、自分の損得を考えずに行動する力です。
それは、気分や相手によって変わるものではありません。

泣いている子がいれば、
「どうしたの」と頭をなぜながら優しく、
訳を聞いてあげられる気持ちがあることです。

いじめにあっている友がいれば、
見て見ぬ振りせずに、「私と一緒に解決しよう」と、勇気を出して言えることです。

横断歩道で不安そうにしているお年寄りがいれば、
ためらわずに「私と一緒に渡りましょう」と、手を差し伸べられる優しい心のことです。

家族に不幸やいさかいがあって、悲しそうな顔をしている人がいれば、
そっと寄り添い、親身になってその人と共に考えられることです。

友だちがいなくて、いつも悲しそうな顔をしている人がいれば
「私でよければ友だちになって貰えませんか」と、思いが解かって話しかけることです。

差別や偏見、風評に苦しめられている人を見かけたら、
「あなたの責任ではない。一緒に考えましょう」と、躊躇せず行動できることです。

楽しそうな人、幸せそうな人に出会ったら、
羨ましく思わず、妬みもせず、一緒に楽しさ、
幸せを感じあえる豊かさのことです。

花が咲けば笑顔になれ、鳥が鳴けばつい口ずさみ、
星を眺めれば夢と希望を見つけようとするなど、
四季や自然や動植物を愛でる心のあることです。

そして、すべての人の命を守ろうとし、
みんなの生活の安定を願い、
常に苦しむ人の側に立って行動し、
戦争や紛争を憎み、平和を築こうとする、
そんな人権尊重の思いで行動できることです。

時には、そのようには思えず、
時には、それが言えず、
時には、そんな行動ができず、
時には、反対のことをしてしまうことがあっても、
「やっぱりそうなんだ」と、
思い返す力を持っていること、
それが豊かな人権感覚をそなえていることです。

わたしは、わたしで
わたしは、あなたでもある
わたしは、みんなでもある
そして、
わたしも、あなたも、みんなも
夢と希望を持っている

あなたの考える人権感覚とは何ですか？

①

②

③

④

⑤

⑥

3. 「人権文化」って何でしょう？

あなたが考える人権文化の薫る街は

登校する子どもの安全を願って
あいさつや声掛けをしている人が
あちこちに見かけられるところです。

収集日でないゴミを出そうとした人に
そっと「そのゴミ、明日ですよ」と
気軽に声をかけられるところです。

朝、出会う人に「いってらっしゃい」
「気をつけて」と話しかけている
犬と散歩中のお年寄りがいるところです。

一人暮らしのお年寄りに黄色い旗を渡し
「朝晩、玄関に出し入れしてね」と言う
若者たちがいるところです。

未成年がタバコを吸っているのを見つけたら
「あなたの健康、自分で捨てないで」と
勇気を出して声掛けできるところです。

井戸端会議で他人の悪口を聞いたら
「悪口は言わないようにしませんか」と
明るく言える雰囲気があるところです。

他人のことを差別する人がいたら
「今度はあなたが軽蔑されますよ」と
はっきり言いあえるところです。

妊婦さんが電車に乗ってきたとき
「ここ空いていますよ」と
さっと席を譲る人がいるところです。

携帯電話の電源オフの車両の中には
誰一人としてごまかさずに
電源を切る人ばかりのところです。

子どもを叩いている親を見かけたら
「ダメ！その手で自分の心を叩きなさい」
と遠慮なく言える人がいるところです。

子どもが学ぶ学校や先生をけなさず
一緒に子どもを育てようとする空気が
つくられているところです。

近所でコロナに感染した家族がいれば
何かお手伝いできることがありますか
買い物してきましょうか
と声かけできるところです。

街角から子どもたちの元気な遊ぶ声が
聞こえてくるところです。

道端の小さな花壇には、いつも可憐な花が
誰かによって世話されているところです。

災害が起きても共助の精神が
当然のようにできる人々が住む街です。

私に・・・それらができなくても
それらがあちこちで感じられたり
見られたりする そんな街が
人権文化の薫る街なのです。

その薫りは街の隅々まで薫っているので
住む人は安心して暮らせる街なのです。

みんなで考えましょう！

あなたの考える人権文化の街は？

①

②

③

④

⑤

4. 自分が好きになるということは

自分自身を好きだという気持ちや、自分を大切に思える気持ちのことを自尊心といいます。

今、幼稚園や保育所、学校ではこの自尊心を子どもの頃から育てようと、きめ細かく支援、指導を行っています。自尊心を育てることで、子どもたちは自分に自信が持てるようになり、ものごとを前向きに考えられるようになります。さらには他人を大切に思える気持ちが育ち、人をいじめたり、暴力を振るったりすることがなくなっていくます。

ところで、私たち大人も子どもたちに遅れをとってはられません。私たちも自尊心を育てていきましょう。自尊心が自分の中に豊かに育つと、心身共に健康を保ていきます。そして、生きていく幸せを感じられます。

ところが、自尊心は自己肯定感でもあるわけですが、それだけを認めていこうとすると、自己中心的な考えに陥ることも良くあることです。「あの人、自分勝手だわ」と言われてしまいます。本来、自尊心は自分を好きになることですが、それは人間を好きになることなのです。ですから、自分と同様に他人に対しても好きになり大切に思える心が育つのです。

私たちは他者をも認めていく自尊・他尊感情を育てていきましょう。そうすることによって自己責任という意識が生まれ、同時に他者への思いやりが生まれてきます。そして、自他の人権を尊重し、数々の人権課題の解決に主体的に取り組むことを、周りの人たちと共に実行していきましょう。

次のチェック表で自分自身をチェックしてみましょう。

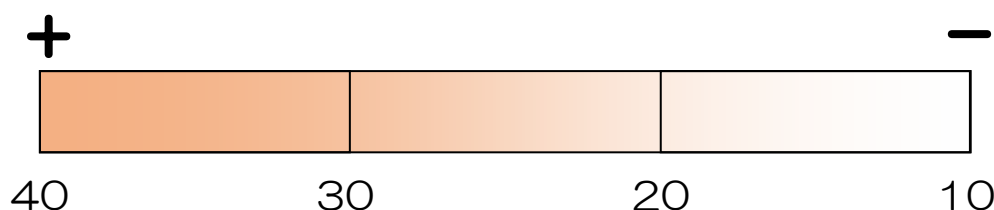
自分自身をチェックしてみましょう

あまり考えずに直感で④～①の欄に○を付けてください。

4→とてもそう思う 3→そう思う 2→あまりそう思わない 1→全くそう思わない

1	自分には、自分なりの良いところがあります。	4	3	2	1
2	自分には、今、頑張っていることがあります。	4	3	2	1
3	自分には、他人に誇れるところがあります。	4	3	2	1
4	自分には、続けている健康的な趣味や娯楽があります。	4	3	2	1
5	自分には、これから将来に向けてやりたいことがあります。	4	3	2	1
6	自分には、他人に何かしらの役だっていることがあります。	4	3	2	1
7	自分には、困っている人を助けたいという気持ちがあります。	4	3	2	1
8	自分には、周りの人からおおむね認められていると思います。	4	3	2	1
9	自分には、周りの人に思いを伝える手段を持っています。	4	3	2	1
10	自分には、「人間大好き」の気持ちが心の中にあります。	4	3	2	1
小計					

【合計】



5. 差別か区別か、それとも・・・

時代と共に私たちの考え方は変わってきます。以前はこうだったのにと嘆く方もおられれば、いや、これこそ人間の進歩だと考えられている方もおられます。どちらにしても、人々の幸せを壊したり、悲しい思いをさせたり、寂しい思いをさせることは許せません。

具体的な事例をあげて、みんなで考えてみましょう。話し合うことで、知らなかったことを知り、人権ということの中身を新しく発見できることでしょう。

差別か区別か（人権侵害かそうでないか）の話し合うヒントとして、幾つかの事例を出してみます。グループ討議をしてみてください。意外な意見が参考になるかも・・・。

学校関係から

1 上靴のゴムの部分が女子は赤、男子は青と決めてある校則

2 呼名するとき女子は「さん」付け男子は「くん」付けです

3 給食でパン（米飯）の量が男子より女子の方が少なくしており、給食費も安くしてある

4 忘れ物や宿題をしてこなかった子どもの名前が黒板の端に書かれている

5 集会などで整列するとき男女別、身長別になっている

6 発表の少ない子どもから発表させるクラスのきまり

日常生活から

1 男性が女性より先にお風呂に入る家庭のきまり

2 保護者が卒業式で生徒に先生への感謝を述べさせるサプライズ計画

3 世間話で「主人は」「旦那は」「家内は」「うちの嫁は」の言い方

4 地域の集会で出席アンケートに性別や年齢を記入する欄があること

社会生活から

1 飲み会などで男性は女性より会費が高くなっている

2 仏滅の日の結婚式場は大安の日より費用が安くなっている

3 刺青のある人は銭湯や大浴場に入れない張り紙

4 危険という理由で車椅子の方は入場お断りの動物園の猛獣区域

6. この意見にあなたはどう思いますか？

①

ある家族の話です。息子の入学を前にランドセルを買いに行きました。「赤いのがいい、赤好きだから」と言い出しました。「赤やピンクは女の子の色だ」と教え、男の子が赤いランドセルを持っていると、いじめられることがあるとも話しました。息子は残念そうでしたが黒を買いました。

②

不登校の生徒がこう言いました。私には教育を受ける権利がありますが、学校に行く行かないを自分で決める権利もあります。義務教育とは国や保護者がすべての子どもに教育を受けられるようにする義務です。子どもが学校に行くことは義務ではありません。

③

あるお父さんの言い分です。わたしの教育方針は「優しく、厳しく」です。善いことをすればしっかり誉め、悪いことをしたら叩きます。この前もご飯をこぼしたのでお尻を叩きました。これを体罰とか虐待とか言う人がいますが我が家の躰です。

④

おじいさんが言いました。大安とか仏滅などの六曜を気にするのは差別につながるという人がいるが、他人に迷惑をかけなければいいのであって、わたしは家族の結婚は大安にするし、通夜の翌日が友引ならその次の日に告別式をやらせる。

⑤

おばあさんが言っていました。結婚するときは身元調査をすることを否定する人がいるけれど、相手の家庭がどういう状況か知ることであまり付き合いができるのです。わたしは調査したからといって差別をしません。職業も家柄も宗教も関係ありません。相手側を知ることであまりいいのです。

⑥

ある知識人が言っていました。子どもを情報化社会から守るには、家族がしっかりしないとダメです。ブログやプロフ、出会い系サイトなどからの被害は携帯やパソコンを持たさなければいいのです。被害者にならないコツは悪から子どもを遠ざけることです。親が子どもを守りましょう。

⑦

ある子どもが『ハチドリのひとしずく』の続きを考える授業でこんな発表をしました。「すると、動物たちはあきれて言いました。『そんなことをしても火は消えないよ』クリキンディはそれでも必死に水を運びました。しかし、疲れて落ちてしまい焼け死にました。動物たちは涙を流しました。」

南アンデス地方に伝わる『ハチドリのひとしずく』の民話

森が燃えていました。
森の生きものたちは、われ先にと逃げていきました。
でもクリキンディという名のハチドリだけはいたりきたり、
くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは、

火の上に落としていきます。
動物たちがそれを見て、
「そんなことして、いったい何になるんだ」と、
言って笑います。
クリキンディはこう答えました。
「私は私にできることをしているだけ」